

建築主：石田 久枝

設計：株式会社 結設計

施工：佐藤建設工業株式会社 東京支店

街に移した森のひとつの型

所在地：千葉市若葉区みつわ台4-4-11

みつわ台の家



東側夕方外観

建築材料としての木材と地球環境問題との関係を念頭に置いた普遍的な木構造技術の開発と、それを応用した特殊解の発見。この困難なテーマに挑んだ野心的な住宅作品である。建築に造詣の深い施主の思いとライフスタイル、そして理解に恵まれて、作者のこの住宅に秘めた野心はみつわ台に開発され成熟しつつある住宅地一帯に穏やかな輝きを放っている。

火事に耐える分厚い(12cm)集成材パネル(幅45cm、長さ5m)を耐力壁に用いた住宅としては9作目にあたる。今回は中空ボックス断面の屋根構造にも応用し上階に柱のない空間を実現した。これは木材生産の上流側出身者である作者が日本の森林資源の循環型再生を念じ、木構造の専門家とともに長年の試行錯誤の末に開発した構法システムである。

システムとしての普遍性と住宅作品としての特殊解の両立は、実現可能なコストで決まる。そのぎりぎりの解を模索したこの住宅は、その両面を垣間見ることのできる快い緊張感と魅力に溢れている。また、面で構成された室内空間は最上階に浮かぶ一枚の白い天井を戴き、オープンな空間

構成によって四方向からの昼光を欲しいままにしている。また夜間には四周の開口部周りに仕込んだ人工照明が点り、白い天井と住いの佇まいが暖かく美しくまちに映える。

本構法の環境性能に関する作者の期待と目論見にはやや過剰な部分もあるが、その結論は今後の事後検証の結果に委ねたい。いずれにしても、伝統的な木造住宅文化の分厚い蓄積に環境的視点を交えながら切り込もうとする材料・構法上の取組みと、木造住宅の手慣れたディテールの積み重ねの妙が本賞にふさわしいと判断された。

(岩村和夫)



居間とデッキを望む



アプローチ夜景